

株式会社 京都銀行

京都市下京区烏丸通松原上る
郵便番号 600-8652

総務省

「多言語音声翻訳システムの利活用実証」に参加します！

株式会社 京都銀行（頭取 土井 伸宏）では、国際観光都市京都の地元銀行として、観光支援への取り組みを一層強化すべく、総務省の平成 28 年度「多言語音声翻訳システムの利活用実証」に参加しますのでお知らせいたします。

今般、平成 28 年度の「多言語音声翻訳システムの利活用実証」実施団体に京都市（代表責任団体）、京都銀行、嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会、京福電気鉄道株式会社が選定され、利活用実証に参加することとなりました。

本利活用実証は、関西文化学術研究都市（愛称：けいはんな学研都市）発の技術である、国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）が開発を進める多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra（ボイストラ）」を活用して外国人観光客とコミュニケーションを行い、システムの利便性向上を目指すものです。利活用実証団体が地域固有の地名・特産品・観光に関する単語等をシステムに登録することで、当該地域における翻訳精度の向上に繋がります。

当行では、嵯峨支店（京都市右京区）において、窓口での外貨両替等の手続き時に「VoiceTra（ボイストラ）」を活用し、おもてなし力の向上と外国人観光客誘致による地域の活性化を図ります。

当行は、現在 48 か所（50 台）の ATM で「中国銀聯カード」による現金のお引出しの取り扱いをしており、今秋には、株式会社 NTT データが新たに提供を開始するサービスの導入により「VISA」、「Master」などの海外発行カードでも「現金のお引出し」が可能になります。

今後も、観光都市「京都」における地元銀行として、観光支援をはじめとする様々なサービスの提供に積極的に取り組み、地域貢献に努めてまいります。

記

1. 当行の利活用実証への参加について

(1) 参加店舗

京都銀行 嵯峨支店（京都市右京区嵯峨天竜寺今堀町 2-6）

(2) 実施内容

iPad にインストールした多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra（ボイストラ）」を活用して、窓口での外貨両替の手続きや銀聯カード対応 ATM のご案内等を行い、おもてなし力の向上と外国人観光客誘致による地域の活性化を図ります。

利活用実証の結果をアンケートに回答するなどして、システムの精度を向上させ、誰にとっても使いやすいサービス、アプリケーションの実現に協力します。

(3) 実施時期

平成 28 年 6 月頃から

2. 京都市での「多言語音声翻訳システムの利活用実証」について

(1) 概要

外国人観光客の満足度向上と買い物をはじめとする観光消費額の拡大を図るため、多言語音声翻訳システムを活用して、外国人観光客に対して的確な観光案内や土産物等の商品説明、日本・京都の習慣やマナー等を紹介することで、グローバルコミュニケーションの実現を目指すものです。

【総務省「多言語音声翻訳システムの利活用実証」について】

総務省は、世界の「言葉の壁」をなくし、グローバルで自由な交流を実現するため、「グローバルコミュニケーション計画」を策定し、2020年までに多言語音声翻訳システムを高度化するとともに、その社会実装を実現すべく取り組んでいる。

その一環として、あらゆる人にとって使いやすい多言語音声翻訳システムの実現に向けて、平成27年度より地域における利活用実証を実施している。

(2) 実施団体（予定）

- ・京都市（代表責任団体）
- ・株式会社 京都銀行
- ・嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会
（嵯峨商店街、嵐山商店街、嵐山十軒会、嵐山中之島会、嵐山西の会）
- ・京福電気鉄道株式会社（嵐山駅インフォメーション）

<ご参考>

1. 多言語音声翻訳アプリ「VoiceTra（ボイストラ）」について

- ・国立研究開発法人 情報通信研究機構（NICT）が、言葉の壁の克服を目指して開発したスマートフォン・タブレット用の多言語音声翻訳アプリ。旅行会話用としての高い翻訳精度を備えている。（英語では、TOEIC：600程度のレベルの翻訳が可能）
- ・音声聞き取って翻訳し発声するもので、現在、27言語に対応している。
※今回の利活用実証は、うち4言語間（日英中〈簡体字、繁体字〉韓）で実施。
- ・「使えば使うほど賢くなる」、つまり、話した音声や対訳文例をたくさん集めれば集めるほど、どんどんスムーズな言葉に翻訳されるため、アプリを無料公開し、性能改善を行うための実証実験を行っている。

2. 国立研究開発法人 情報通信研究機構について

情報通信研究機構（NICT: National Institute of Information and Communications Technology）は、情報通信分野を専門とする唯一の公的研究機関として、豊かで安心・安全な社会の実現や我が国の経済成長の原動力である情報通信技術（ICT）の研究開発を推進するとともに、情報通信事業の振興業務を行っている。

関西文化学術研究都市（愛称：けいはんな学研都市）には、同機構のユニバーサルコミュニケーション研究所がある。

以上